



# 稲作情報 8号

令和3年7月9日  
JA新みやぎ 栗っこ地区本部

## 1. 水稻の生育状況と出穂予想

7月1日現在、ひとめぼれの生育は、草丈 47.5 cm (平年比 104.1%)、茎数 462.5 本/m<sup>2</sup> (平年比 94.9%)、葉齢 9.3 葉 (平年差 -0.2 葉)、葉色 40.5 (平年差 -2.4) の状態にあります。東北地方では6月19日に梅雨入りしましたが、晴れの日が続き、気温は高く、日照時間も多かったため稲の生育は順調です。

現在のところ極端な低温経過となる予報は発表されていませんが、中干しが終了しだい深水管理等気象条件に合わせた水管理が重要となります。

今後の天候が平年並みと仮定した場合、5月前半に田植えをした水田での幼穂形成期は7月10日頃、減数分裂期は7月20日頃、出穂期は8月上旬(8月3日前後)と見込まれます。

なお、管内では晩期栽培の取り組みにより5月後半にかけて田植え作業をした割合も高いため、出穂期間の幅は広がるのが予想されます。

田植え時期、作付け品種の特性を考慮し、稲の生育状態をよく確認して適期の穂肥を行ないましょう。

### 《7月1日現在の生育状況》

品種	田植日	草丈	茎数		葉齢	葉色
			1株当り	m <sup>2</sup> 当り		
ひとめぼれ	5月18日	42.7 cm	18.1 本	295.0 本	9.0 葉	42.0
	5月11日	52.3 cm	34.8 本	629.9 本	9.5 葉	38.9
平均	5月14日	47.5 cm	26.5 本	462.5 本	9.3 葉	40.5
平年比	—	104.1%	93.1%	94.9%	-0.2 葉	-2.4
つや姫	5月22日	47.8 cm	25.5 本	387.6 本	9.0 葉	44.8
平年比	—	99.9%	97.9%	84.1%	-0.2 葉	+2.2
東北194号	5月13日	55.5 cm	28.5 本	575.7 本	9.3 葉	41.2
平年比	—	118.0%	112.9%	120.9%	-0.3 葉	-1.5
萌えみのり	5月23日	45.1 cm	19.5 本	317.9 本	9.3 葉	46.4
	5月10日	55.0 cm	36.2 本	575.6 本	10.1 葉	46.5
	5月5日	56.5 cm	33.4 本	624.6 本	10.0 葉	46.4
	5月15日	57.8 cm	34.2 本	649.8 本	8.8 葉	40.9
	5月9日	52.9 cm	48.3 本	869.4 本	10.8 葉	40.4
平均	5月12日	53.5 cm	34.3 本	607.4 本	9.8 葉	44.1
平年比	—	108.2%	106.1%	103.2%	-0.1 葉	±0.0

## 2. 収量・品質の向上を目的とした適期の追肥(穂肥)

近年、登熟期の高温経過(猛暑)によって土壌窒素の消失が早まるため、葉色の急激な低下が起因し、米の収量と品質に影響を及ぼしています。安定した収量と品質の向上を目的に追肥(穂肥)を行ないましょう。

なお、一発型肥料を使用している場合においても状況しだいでは追肥が必要となる可能性もありますので、ご検討をお願いします。

**安定生産のための適正な粒数レベル → m<sup>2</sup>あたり 28,000 粒~30,000 粒を目標**

## 3. 追肥(穂肥)の基本施肥量

追肥(穂肥)は施用時期によって効果が異なりますので、作付け品種や地力窒素発現の特徴などに応じて施肥時期と施肥量を決定します。

環境保全米づくりで有機質の成分が含まれる肥料を追肥に使用する場合は、肥効が現れるまでの時間がかかりますので、幼穂形成期の始期頃よりもやや早めの施肥を行ないましょう。

萌えみのりなどの多収品種は窒素成分を多く必要としますので、適量施肥で安定多収栽培につなげましょう。

堆肥等の有機物を施用している場合においては、草丈が長い(下位節間の伸長)、茎数が多い、葉色が濃いなどの状況があり得ますので、この様な場合の追肥(穂肥)は慎重な判断が必要です。

稲作に関するご相談は、最寄りの営農センターにお問い合わせください(巡回相談対応実施中)

# 穂肥窒素の施用時期と生産要因への影響 【◎効果高い ○効果あり ×悪影響あり ××悪影響強い】

		生産要因への影響					
		穂数の増加	1穂粒数 (穎花数) の増加	1穂粒数 (穎花数) の減少防止	登熟の良化	下位節間の 伸長と倒伏	玄米タンパ ク質の増加
施肥時期	幼穂形成期	○	◎	○		×	
	減数分裂期		○	◎	◎		
	穂首分化期	○	○		×	××	
	穂揃期				○		×

## 環境保全米 ⇒ 化学態窒素の上限に注意（栽培期間中の化学態窒素 3.5kg/10a 以内）

品種	穂肥時期	施肥参考（栽培ごよみを参照）	備考
ひとめぼれ つや姫	幼穂形成期	基肥N12%を50kg施肥の場合・・・ <b>追肥不可</b> 基肥N10%を50kg施肥の場合・・・ <b>追肥可能</b> ※ただし、NK化成肥料（現物）で5kg程度が <b>限度です。</b>	葉色が濃い場合は減数分裂期で行う。 または無理しない。
	減数分裂期		
ササニシキ 東北194号	減数分裂期		

※環境保全米栽培ごよみを参照。田植え時期等による圃場間の差がありますので生育状況をよく確認して下さい。

## ぼっちやり米（マニュアル米） ⇒ 窒素成分で1kg/10a


品種	穂肥時期	施肥量（現物）	窒素成分	備考
ひとめぼれ	幼穂形成期	NK化成肥料 6~7kg/10a	1kg/10a	葉色が濃い場合は減数分裂期で
	減数分裂期	NK化成肥料 6~7kg/10a	1kg/10a	葉色が濃い場合は無理しない
ササニシキ	減数分裂期	NK化成肥料 6~7kg/10a	1kg/10a	葉色が濃い場合は無理しない

## 多収品種 ⇒ 窒素成分で2kg/10a


品種	穂肥時期	施肥量（現物）	窒素成分	備考
萌えみのり	幼穂形成期	NK化成肥料 12~13kg/10a	2kg/10a	葉色が濃い場合は減数分裂期で・または無理しない
ゆみあずさ	幼穂形成期	NK化成肥料 12~13kg/10a	2kg/10a	葉色が濃い場合は減数分裂期で・または無理しない
つきあかり	幼穂形成期	NK化成肥料 6~7kg/10a	1kg/10a	葉色が濃い場合は減数分裂期で
	減数分裂期	NK化成肥料 6~7kg/10a	1kg/10a	葉色が濃い場合は無理しない

JAでは流し込み用肥料の「みなくちNK」も取り扱いしています。

「みなくちNK」は、水掛かりの良い大区画ほ場での追肥に適しています。施用方法は下図のとおりです。



**定番のNK!**



**大規模水田に!**

### みなくちNK使用解説図

**1** 流し込む前の水深は、水口で1~2cm(ひたひた)にしてください。

**2** 「みなくちNK」の必要量(品種毎の施肥現物量)を繻状の袋(ライスロンなどが便利)に移しかえてください。繻状の袋に移しかえた「みなくちNK」を水口に放置してください。

**3** 「みなくちNK」が溶解後も追水し、水田の水位が平均5cm以上になるまで灌水してください。

**4** 水口施肥後は4~5日落水しないでください。

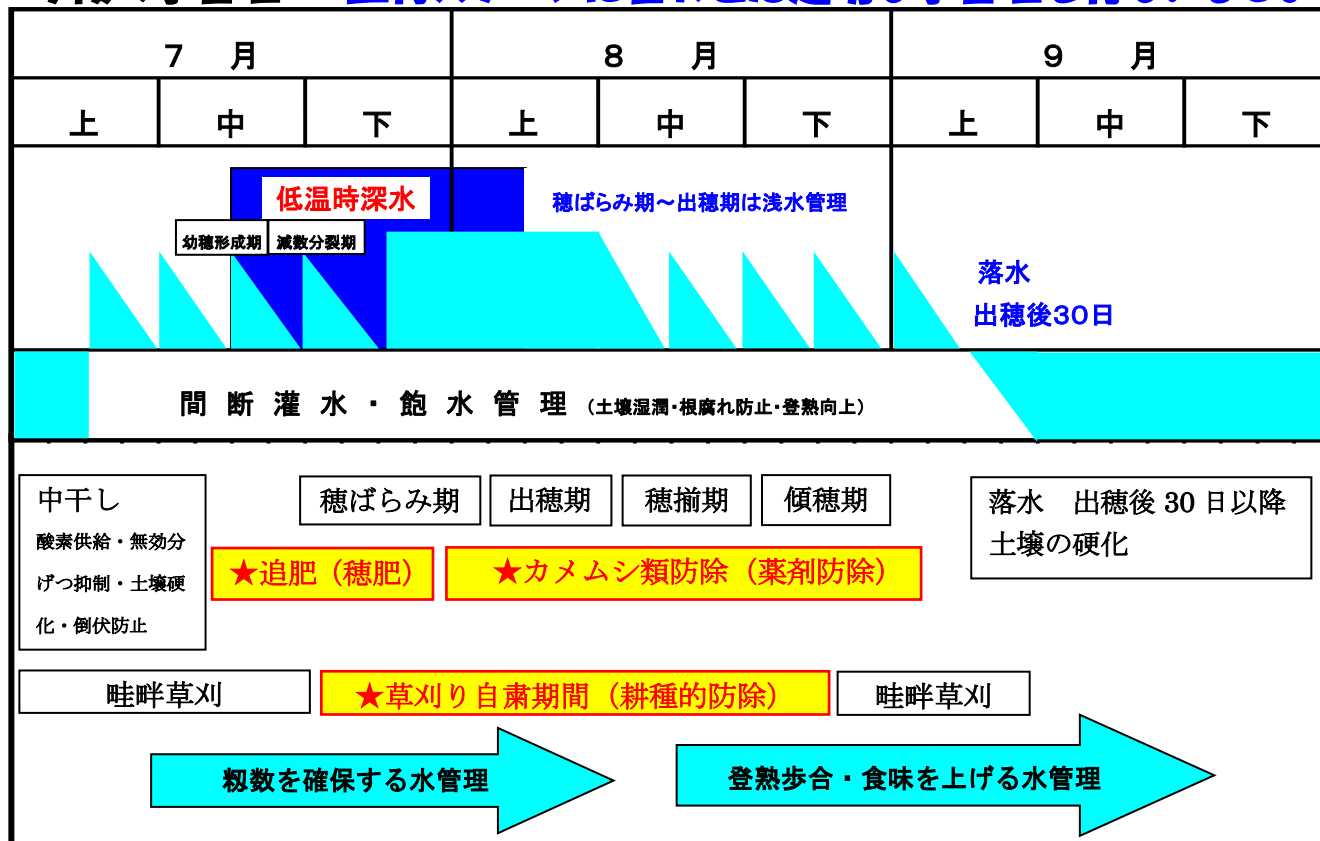
**↓ここに注意↓**

**施用上の注意**

- 田面が平らで畦畔の高さが7~8cm以上の水持ちの良い水田に適しています。
- 灌水は1日で5cm以上の水深となる量が必要で、灌水水がひどく濁っている場合には施肥むらの恐れがあります。
- 施用面積は、30a毎に水口が1ヵ所以上あれば、大型圃場にも施用できます。
- 極端な漏水水田には適しません。
- 変形の圃場では、施肥むらの恐れがありますので、使用しないで下さい。

いずれかの肥料で追肥（穂肥）を行ない、米の安定生産に結びつけましょう。

## 4. 今後の水管理・・・生育ステージに合わせた適切な水管理を行ないましょう



### 1) 穂ばらみ期の水管理

穂ばらみ期から出穂開花期前後は水の吸収量が最も多い時期です。この時期に水不足になると、幼穂の発育や開花受精が妨げられて減収となるので、幼穂形成期から出穂開花期までの水管理は、低温時を除き間断灌水を行ないます。

### 2) 低温時の水管理

低温の影響で最も減収しやすい時期は減数分裂期（出穂前 15 日～10 日）。次いで、幼穂形成期（出穂前 25 日～20 日）です。この時期に、日平均気温 20℃以下、最低気温 17℃以下の日が続く場合は、障害不稔対策のための深水管理を行ないます。

**幼穂形成期（出穂前 25 日～20 日）・水深 10cm 減数分裂期（出穂前 15 日～10 日）・水深 20cm 水田の畦畔が低く、この水深を確保できなくても可能な限りの深水管理を行ないましょう。**

### 3) 出穂後の水管理と適期落水の時期

出穂後は白未熟粒（心白・腹白）等の高温障害を回避するため、高温経過（猛暑）時には間断灌水等により土壤を常に湿潤状態に保つ飽水管理を行います。

また、収穫時期の作業性を心配し、落水時期を早くすると白未熟粒（心白・腹白等）の発生によって整粒歩合が低下する原因になります。ほ場が整備され排水性が良好な水田では落水時期を出穂後 30 日以降とし、根の働きを維持することで玄米品質の向上を図ります。

**適期落水の時期は、米の厚みと幅が決定される出穂開花後 30 日以降としましょう。**

### 4) 夏場の湛水管理で安全な米づくり

出穂前 25 日から出穂後 25 日までの期間に水田土壤が乾きすぎると、土壤中のカドミウムが吸収されやすくなります。湛水管理の徹底で安全な米づくりをお願いします。

**農作物生産流通対策事業に係る水管理の徹底 ⇒ 出穂期前後 50 日間の湛水管理を行ないましょう**

## 5. 稲こうじ病・紋枯病の防除薬剤・・・前年に発生した水田は要注意

適用病害	薬剤名称	使用量	使用時期	使用方法
稲こうじ病	Zボルドー粉剤DL	3～4kg/10a	出穂10日前まで	散布
紋枯病	バリダシン粉剤DL	3～4kg/10a	収穫14日前まで	散布
	バリダシン液剤5	1,000倍希釈 60～150 $\frac{L}{ha}$ /10a	収穫14日前まで	散布

## 6. カメムシ類の防除薬剤・・・出穂期と穂揃期の2回防除を

**1回目の防除** ぼっちゃり米（マニュアル米）・環境保全米ひとめぼれ・つや姫等・環境保全米ササニシキ

防除区分	薬剤名称	使用量	使用時期	使用方法
地上防除	キラップ粉剤DL	3～4kg/10a	収穫14日前まで	散布
地上防除	キラップフロアブル	2,000倍希釈 60～200 $\frac{L}{ha}$ /10a	収穫14日前まで	散布
無人航空機防除 (無人ヘリ・ドローン)	キラップフロアブル	16倍希釈 0.8 $\frac{L}{ha}$ /10a	収穫14日前まで	空中散布

**2回目の防除** ぼっちゃり米（マニュアル米）・環境保全米ひとめぼれ・つや姫等

防除区分	薬剤名称	使用量	使用時期	使用方法
地上防除	ダントツ粉剤DL	3～4kg/10a	収穫7日前まで	散布
地上防除	ダントツフロアブル	5,000倍希釈 60～150 $\frac{L}{ha}$ /10a	収穫7日前まで	散布
無人航空機防除 (無人ヘリ・ドローン)	ダントツフロアブル	24倍希釈 0.8 $\frac{L}{ha}$ /10a	収穫7日前まで	空中散布

※環境保全米ササニシキの2回目の防除は以下に記載のスタークル剤を使用します

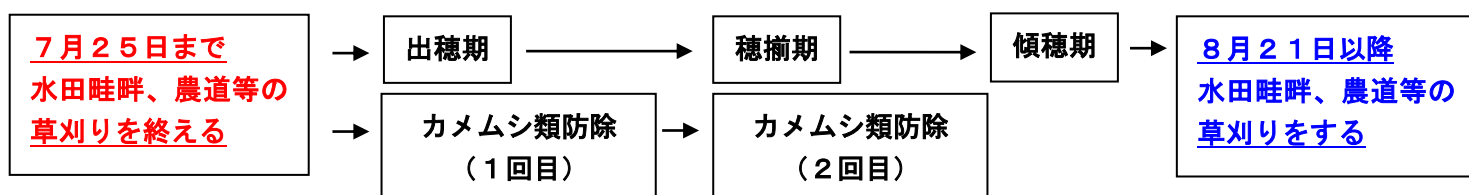
防除区分	薬剤名称	使用量	使用時期	使用方法
地上防除	スタークル粉剤DL	3kg/10a	収穫7日前まで	散布
地上防除	スタークル液剤10	1,000倍希釈 60～150 $\frac{L}{ha}$ /10a	収穫7日前まで	散布
無人航空機防除 (無人ヘリ・ドローン)	スタークルメイト液剤10	8倍希釈 0.8 $\frac{L}{ha}$ /10a	収穫7日前まで	空中散布

※環境保全米では同一薬剤による2回防除はできませんのでご注意ください。

## ◆栗原市水稲カメムシ被害抑制対策本部からのお知らせ◆

**7月26日（月）～8月20日（金）まで草刈りを自粛しましょう。**

カメムシ類の効果的な防除：草刈り自粛（耕種的防除）と適期2回の薬剤防除



※草刈り自粛期間及び薬剤防除に関するお知らせは、栗原市水稲カメムシ被害抑制対策本部より発行された「カメムシ類の防除対策情報」（令和3年7月1日付）をご覧ください。